



ニュースレター「OMOTESANDO HILLS PRESS」は、『文化』『環境』『人』『商業』の4つの視点から、表参道ヒルズの“今”をお届けします。

[MOOH]のディレクター 藤本やすし氏 インタビュー

日本のファッション・カルチャー誌の歴史において、エディトリアルデザインの潮流に影響を与えたとされる、アートディレクターの藤本やすし氏。2008 年、彼は表参道ヒルズを丸ごとミュージアムに変身させた[MOOH]のディレクターを務める。そんな藤本氏に、[MOOH]や表参道の街などについて伺った。

グラマラスに変身した表参道ヒルズ [MOOH]

2 周年を迎えた表参道ヒルズの 2008 年のテーマは、「ファッション×アート」。そのテーマにふさわしく、2 月 8 日(金)から[MOOH(ムー)](The Museum of OMOTESANDO HILLS)が始まる。東京のファッション・シーンを象徴する表参道ヒルズをアートとつなぎ、建物全体をミュージアムに変身させるという、大胆な発想のイベントだ。このディレクターを務めたのが、藤本やすし氏である。

「僕は雑誌のデザインやアートディレクションをずっと手掛けているんだけど、新しい雑誌には必ずサプライズをもって思いながら仕事をしているんだ。表参道ヒルズでのイベントを依頼された時、やっぱり驚きがないとダメだよなって思った。それで考えたのが、『表参道ヒルズミュージアム』。ショップのアイテムをアート作品に見立てるんだ。お店においてあるアイテムは、ファッションデザイナーがこだわって作った一種の“アート”なわけだから」と語る。

藤本氏のアイディアは、約 80 店舗のウィンドウ・ディスプレイに、キラキラ感のあるゴージャスな額縁風グラフィックを施し、洋服やアクセサリー、靴、雑貨などを特別なアートワークに見立てるといふ、「一種のギミック」である。変身した商品はいつもとは違う表情を見せ、幻想的な雰囲気を醸し出す。「額縁のデコレーションをつけることによって、商品が大人っぽく、グラマラスな印象になるんだよ」と藤本氏は語る。

そして、館内のアートボードなどには、藤本氏の構想をビジュアル化した、パリ在住のファッションイラストレーター、ジャン・フィリップ・デローム氏のアート作品が飾られる。「[MOOH]のメインビジュアルを、と考えた時に、真っ先に浮かんだのがデロームだったんだ。7、8 年前から、雑誌の表紙などでよく一緒に仕事をしていることがあってね。ファッション感のある、おしゃれなイラストが欲しい時は、必ず彼に連絡するんだ。デロームと表参道ヒルズ。この組み合わせは、ラグジュアリーなおしゃれ感を生み出すよ。間違いなくね」

期間中は、各ショップで人気アーティストとコラボレートした絵画やオブジェなどのアート作品も展示し、ファッションとアートの融合空間を創り出している。「マルセル・デュシャンの言葉に『作品の半分は鑑賞者がつくる』という言葉がある。来館したお客様には、それぞれの感性で、作品の価値の半分を作ってもらいたいと思う。そして、ファッションやアートの新しい価値を[MOOH]で発見して欲しいな」



© Yasushi FUJIMOTO

表参道ヒルズはおしゃれな人のクローゼット

藤本氏にとって、表参道ヒルズは思い出の残る地。藤本氏がオーナーである「gallery ROCKET」は、かつての同潤会青山アパートの一室でスタートした。その跡地にできたゼルコバテラスに、今はプライベートの仕事場を置いている。「表参道って面白い街だと思う。原宿のストリートな雰囲気と青山のラグジュアリーな雰囲気。相反する二つがうまく混在し、共存している。表参道は、その二つをつなぐランウェイのようなものだと思う。そして、表参道ヒルズはクローゼットかな。僕はそのクローゼットの上で、ランウェイを眺めながら考え事や物作りの準備をするのが好きなんだ」と話す。

藤本氏と表参道の付き合いは、かれこれ 15 年になる。その間に、表参道は日々進化し続けている。その変遷を肌で感じてきた藤本氏は、「新しい建物がどんどん増えていっているよね。商業施設はもちろん、ヘアサロンやファッションショップ。それに、海外ブランドの進出や、新しい建築家のモニュメントとかも次々と出来て、表参道の街全体が生まれ変わっていている。新しいお店ができると、そこに訪れる人や働く人たちが増えて、表参道がさらにおしゃれに活性化されていると思う」と語る。

表参道ヒルズから発信していくアート・スクエア

藤本氏が、今東京で一番注目しているのは、森美術館をはじめとする六本木のアート・トライアングルだ。「何とか『表参道ヒルズミュージアム』もくっつけて、アート・スクエアにしてみたいなって思ってるんだ」

常にその時代の“NEW”を創り出してきた藤本氏。表参道ヒルズから発信する、彼のサプライズなインスピレーションを体験していただきたい。

藤本 やすし プロフィール

1983 年にデザインオフィス「Cap」設立。アートディレクターとして過去に『マリークレール』『流行通信』『olive』『STUDIO VOICE』『Tokion』など、現在では『VOGUE NIPPON』『GQ JAPAN』『GINZA』『BRUTUS』『CASA BRUTUS』『BRURUS TRIP』を手掛ける。デザイナーとして関わった雑誌は約 100 誌にのぼる。他に、ルイ・ヴィトン、表参道ヒルズの広告印刷物や、アパレルのシーズンカタログなどのアートディレクターも務める。

1996 年 gallery ROCKET を原宿にオープン。2 度の移転を経て、2007 年 11 月南青山にリオープン。また 1999 年には編集および広告制作を手掛ける RCKT/Rocket Company*を設立。

ギンザグラフィックギャラリーにて 2004 年 3 月「雑誌をデザインする集団 CAP 展」、2007 年 11 月「WELCOME TO MAGAZINE POOL 展」を開催。

著書として、2004 年『雑誌をデザインする集団キャップ』、2006 年『雑誌をデザインする人と現場とセンスの秘密』、2007 年『雑誌デザインの潮流を変えた 10 人』をピエブックスより発行。

- 内容に関してのお問合せ、藤本やすし氏の顔写真をご入用の際には、下記までご連絡頂けますようお願いいたします。
- このインタビュー記事は、本文をご自由にご利用下さい。
- ご取材を頂ける際には、下記までお問合せ下さい。

<お問合せ先>

森ビル株式会社 表参道ヒルズ運営室

プロモーショングループ:石川・北川

TEL 03-3497-0292 FAX 03-3497-0318

表参道ヒルズPR事務局:中山・高田・高橋

TEL 03-5775-1560 FAX 03-3403-0508

【参考】

[MOOH](The Museum of OMOTESNADO HILLS)

2周年を記念して、表参道ヒルズの建物全体が期間限定のミュージアムに変身する[MOOH]が2008年2月8日(金)~3月下旬まで開催予定。フランスを代表するイラストレーター ジャン・フィリップ・デローム氏が描き下ろした[MOOH]のメインビジュアル3点を期間限定カフェ”MOOH CAFÉ by OMOTESANDOSARYO Hello, Jean-Philippe Delhomme”に展示する他、館内のビルボードなどに飾る。また、約30店舗に店内で絵画やオブジェなどアート作品を展示するアート展を開催。約80店舗のウィンドウ・ディスプレイには、キラキラ感のあるゴージャスな額縁のデコレーションを施し、商品を特別なアートワークと見立てて展示するなど、館内全体を美術館のように演出。会期中は、藤本氏がデザインを手がけたおしゃれな MOOH のロゴとパターンをあしらったエコバッグなど、ミュージアム・グッズも販売。



ジャン・フィリップ・デロームが MOOH のために描き下ろした作品



MOOH のロゴとパターン

表参道ヒルズとは

表参道ヒルズは、日本のファッション、文化の中心としてトレンドを発信し続けてきたストリート・表参道の新たな核として2006年2月に誕生した、世界に類をみない文化商業施設です。

本館中央の6層(地下3階~地上3階)の吹き抜け空間や、それを螺旋状に囲むように表参道の坂とほぼ同じ勾配を持つ長さ700mの“スパイラルスロープ”(第二の表参道)、吹き抜け空間中央(地下1階から地下3階)の大階段、そして大階段につながる地下3階には約500㎡の広さを持つスペース「O:(オー)」が配置されています。約270mのファサードを構え、延床面積34,061㎡、約100の専門店が集う商業施設、38戸の住宅(ゼルコバテラス)、全216台の駐車場で構成された複合施設です。

所在地	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-12-10
代表電話番号	03-3497-0310(総合インフォメーション/受付時間 11:00~21:00)
URL	www.omotesandohills.com